

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所の事故分析に関する面談

2. 日時：令和5年3月2日（木）15時00分～15時35分

3. 場所：原子力規制庁6階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

安井原子力規制特別国際交渉官

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、岩永企画調査官、木原室長補佐、横山係長

澁谷企画調査官、正岡企画調査官、安部室長補佐（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

燃料デブリ取り出しプログラム部 担当者1名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、1号機原子炉補機冷却系（RCW）の熱交換器内包水のサンプリング作業の状況及び当該系統の入口配管内でサンプリングした内包水の分析結果に関して、資料に基づき説明があった。
- 原子力規制庁から、東京電力が行ったRCW系統のインベントリー評価の算出条件を確認するとともに、分析を行った核種等の測定項目や濃度の確認を行った。
- 東京電力から、RCW熱交換器や配管の構造等をもとにインベントリー評価の算出条件を設定していること及び今回の測定値は速報ではあるが、Cs-137の濃度及びH-3の濃度は、これまで福島第一原子力発電所敷地内で測定された数値と比較しても高い旨の回答があった。
- 原子力規制庁から、本件については、東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会において、引き続き、当該系統内に滞留していた水素ガスの成因及び高いCs-137濃度、H-3濃度となった要因等を議論する旨を伝えた。

6. 資料

- 1号機RCW熱交換器内包水の放射能について

以上